



動物レスキュー通信

2021年3月 第94号 (令和3年3月1日発行)

発行元
一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
ペット災害危機管理士 三級
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

犬猫の食事の仕方 食事を与える際のポイント



91号ではペットフードのタイプ、93号ではペットフードの歴史をお話ししましたが、今回はワンちゃんネコちゃんなどのように食事を与える傾向にあるのか、そして食事を与える際のポイントなどのお話をします。

犬猫の食事の仕方

ワンちゃんは野生では自らの身体よりも大きい獲物を群れで襲い狩ります。毎日狩りが成功するとはいかず、何日も食事にありつけないこともあります。その為、獲物にありつけた際には出来るだけたくさん食べるのです。ですからワンちゃんの胃は大きくできており、獲物を飲み込みます、子犬がいる時にはそのまま巣穴に戻り、吐き戻して子犬に食事を与えます。コソパニアニマルとして人と暮らすようになった家庭犬にも、もちろんその名残はありますので、ワンちゃんには食への執着心が強く、目の前に食事が出てくると慌てて食べる傾向が強いのです。私もそうですが空腹時間が長いと食事をとった際に一気にかきこんでしまいます。そんな光景を想像して頂けるとわかりやすいかもしれません。その為、ワンちゃんの食事を1日1回にしてしまうと慌てて食べる傾向が強くなってしまいますので、朝夕の2回に分けて与える方がよいでしょう。また、子犬の場合は胃が成長しきっていないため小さく、一度にたくさん食べる事ができませんので、

1日の食事を4〜5回に分けて与えるようにしましょう。一方ネコちゃんは野生では自らの身体よりも小さい獲物を単独で狩ります。トムとジェリーでも有名ですがネズミなどの小動物を狩るため、1日に何度も狩りをし、何度も食べる習性があります。一度に食べられる量が少ないという事です。ネコちゃんによっては1回分の食事を食べることができずに1日中だらだらと食べ続ける子もいます。しかし食事の出しっぱなしは衛生面から考えてもよくありませんので、1回の食事は食べきれぬ量を与えてあげるように心がけましょう。その為、1日の食事回数は2回とは言わず3回、4回に分けて与える方がベターです。

与える際のポイント

ワンちゃん、ネコちゃんに共通して言えることですが、健康を保つためにペットフードにより、年齢、体重等で与えるべき量が決められていますので、体重等を管理しながら与えることは基本ですが、それ以外にも落ち着いて食事ができる環境を作っておくことが大切です。食事の場所、時間、食器、フードは基本的に毎回同じにしてあげる事が大切です。味の趣向が変化した際や年齢が上がり与えるフードを変更したい場合などは、一気に新しいものに変更するのではなく、まずは今までのフードに新しいものを少し混

せて与え、徐々に新しいフードと今までのフードの比率を変更し、1週間程度をかけて最終的に新しいものに切り替える、と言うような配慮をしてあげましょう。また、背の高いワンちゃん、口のまわりから鼻先にかけての部分(マズル)が短いネコちゃんなど、犬種、猫種によって食器選びも大切です。マズルの長いボルゾイなどの犬種は深い食器の方が食べやすいです。その一方、マズルの短いパグ、ブルドッグなどの犬種、ペルシャなどの猫種は底が浅くて間口の広い食器の方が食べやすくなります。また、アイリッシュ・ウルフハウンドやグレート・デーンなどの体高の高い犬種は、首を床まで伸ばして食事をとるのはとても大変なため、フードスタンドなどを使用し、高い位置で食事ができるように工夫してあげると楽に食事がとれるようになります。また、高齢やマズルの短いワンちゃん、ネコちゃんには少しの高さと傾斜をつけてあげる事で格段に食べやすくなります。また大切なのはフードだけではなく、飲み水にも配慮が必要です。気温や運動量、食事内容によっても変わってきますが、基本的にフード重量の約2.5倍の量が必要とされています。その為、ワンちゃん、ネコちゃんがいずれでも新鮮なお水が飲めるようにしておいてあげる必要があります。飲み干してしまつて器が空っぽになるだけではなく、ネコの多頭飼いの場合など、じゃれ合っているうちにひっくり返してしまう、などの事もありますので、お水の量はこまめにチェックしてあげなくてはなりません。しかし現在では様々な種類のお水をろ過しながら循環する自動給水器がありますので、うまく活用すれば飼い主さんの負担を減らすことも可能です。

食事の習性や飼い主さんが気を付けてあげられるポイントを知ることによって、ワンちゃん、ネコちゃんとの絆が更に深まり、幸せな生活がより長く続くことでしょう。(詩月)